

令和4年度 第2回川崎市地域包括ケアシステム連絡協議会 報告書
～心豊かな生活を送るために、どのようなサービス・支援・資源の活用が有効か～

日時：令和5年2月6日（月）18：00～20：00

場所：第4庁舎ホール及びオンライン 併用開催 参加人数：約59人（事務局除く）

今回も会場とオンラインの併用開催で、全体で地域包括ケアシステム構築の取組報告などを実施した後、9グループ（会場5、オンライン4）に分かれてグループディスカッションを行いました。各自の意見等をグループ内で共有・整理し、最後に全体に向けて発表し内容を共有しました。

市長挨拶

本日も多くの皆様にご参加頂き、誠にありがとうございます。今年に入り、人材不足の話も多く聞くようになり、非常に危機感を持っています。そのような状況において、社員等の介護離職というのは、事業の持続可能性にも影響する深刻な課題であると捉えています。

本日は、小田急電鉄様の取組紹介やグループディスカッションを行います。具体的にどう行動が起こせるかを考えていけるようになってきたと感じています。2025年のターゲットイヤーを目指して、皆様と力を合わせて、取り組んでいきたいと思っております。本日もどうぞよろしくお願い致します。



川崎市における地域包括ケアシステム構築の取組（地域包括ケア推進室）

(1) 地ケア構築が必要となる背景

- ・全国的に少子高齢化や地域関係の希薄化が進展しており、川崎市でも課題である。
- ・そのため、セルフケアや重度化防止による「生活課題の縮減」、多様な主体の活躍やサービス提供の効率化による「支援体制の効率化」、支え合いの回復による「地域力の向上」などに取り組んでいく。

(2) 地ケアの構築に向けた市の取組

- ・基本理念である「誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができる地域の実現」を目指し、課題解決に向けた対応を3つの視点から進めている。

地域包括ケアシステムに関する市内の活動紹介～小田急電鉄株式会社 戸澤基能氏～

(1) 小田急くらしサポートについて

- ・『小田急くらしサポート』は、生活支援サービスのニーズ増加を背景に、日本一暮らしやすい沿線を目指す小田急グループ各社が連携して、ワンストップで解決できるような相談窓口として2014年に開設した。
- ・現在は、麻生区新百合ヶ丘を拠点に、東京都、神奈川県内で対応エリアを拡大している。
- ・サービスメニューは、ハウスクリーニング等の家事代行をはじめ、庭木の剪定や家具移動サービス、家系図作成サービスなど多岐にわたる。
- ・特に、高齢者等の見守りの観点から「訪問美容サービス」、「デジタル機器訪問サポートサービス」、「家電レンタルサービス」など、近年ニーズの高い生活支援サービスも実施している。

①意識づくり

- ・地ケアポータルサイト等での広報、企業向けの介護離職防止リーフレットの作成 など

②地域づくり

- ・住民主体の活動の創出・継続に向けた支援 など

③仕組みづくり

- ・介護予防・生活支援のあり方検討や、「健幸 UP!!プログラム」等のモデル事業の取組 など

(3) 今後の取組の方向性

- ・2025年を一つの目標年次として具体的な取組を進め、2040年を視野に入れて、医療・介護ニーズの増大への対応等に全庁で取り組んでいく。

(2) 沿線自治体等との連携

- ・「認知症サポーター養成講座」の受講や川崎市、相模原市、世田谷区、狛江市、町田市の高齢者福祉の窓口と連携している。川崎市とは、「地域見守りネットワーク事業」に関する協定を2016年に締結し、小田急くらしサポートにおけるこれまでの連携実績は10件である。

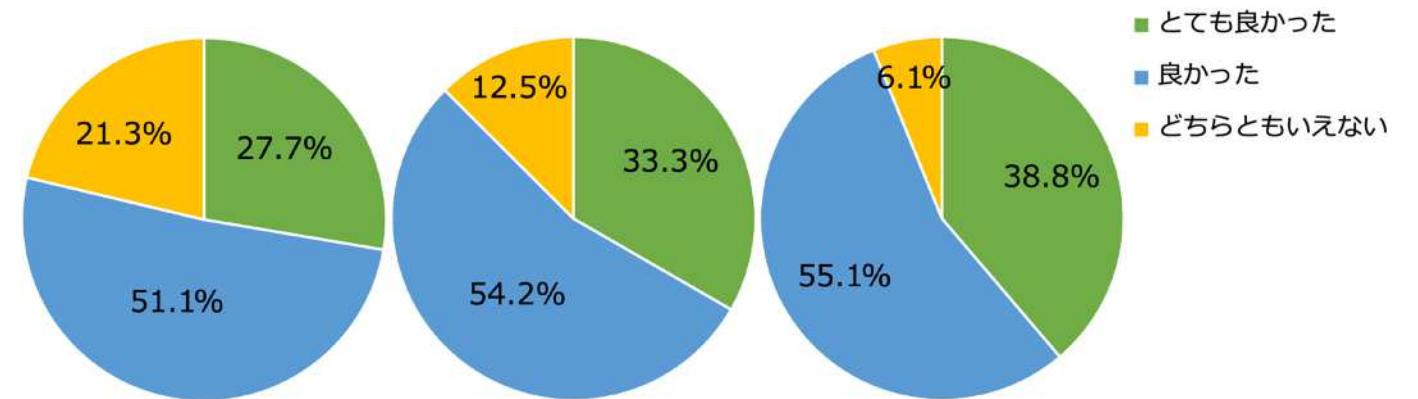
(3) 地域見守り活動例について

- ・主に高齢者の見守りのため、セコム社と一緒にコミュニケーションロボットを活用した見守りサービスを検討している。
- ・子どもの見守りでは、駅に設置された検知器で子どもが携帯するタグを感知し、位置情報や行動履歴を親のスマホに通知するというサービスに取り組んでおり、今後は高齢者への展開も検討している。

【参加者のアンケート結果】

●今回の連絡協議会のプログラムについて

- (1) 地ケア構築の取組報告 (n=47) (2) 市内の取組状況報告 (n=48) (3) ディスカッション (n=49)



●連絡協議会のプログラムについて（抜粋）

(1) 地域ケア構築の取組報告

- ・初参加の方でも分かりやすかったと思う。
- ・繰り返しであっても、このような内容の周知は継続していくことが大切だと思う。
- ・この報告に時間が掛かり過ぎる。もっと簡潔な説明を。初参加者には事前の動画配信説明でも良いのでは。
- ・参加団体に何を求めているのかを明確にさせていただけるとありがたい。

(2) 市内の取組状況報告

- ・小田急電鉄の地域に密着した事業内容を聞いた。
- ・電鉄さんの考える未来図が見えた気がした。
- ・電鉄会社が生活支援サービスをするという発想が斬新で面白かった。
- ・大手電鉄会社が地ケアに理解を示し活動をしていることを頼もしく感じた。
- ・小田急とセコムのIoTを活用した見守りサービスのコミュニケーションロボットはとても興味深く、服薬支援ロボと一緒にできればより良いと思った。

(3) ディスカッション

- ・他業態の違う観点から意見を聞くことができた。
- ・十人十色で勉強になった。
- ・毎回、ディスカッションを通じて発見がある。
- ・前回と同じメンバーだったので話もしやすかった。
- ・一番遠い人の話はグループ内でも聞き取りづらい。
- ・時間が短く感じたので、テーマによってはもう少しディスカッションする時間があっても良かった。
- ・一つの事象(事例)を真ん中においた検討は、具体性が出てとても有効だと思った。
- ・この課題で意見を導くという事に、どのような意図があるのか分からなかった。時間が足りないし、多種多様な人が集まっているのに勿体無いと感じた。

●今後の連絡協議会で行ってほしい内容（抜粋）

(1) 市内の活動紹介

- ・子ども、子育て、障害児・者分野の取組を聞きたい。
- ・企業の事例で、本業とは別の生活支援事業や、本業を活用した生活支援などを紹介してほしい。
- ・理美容や浴場組合など長い付き合いがされ、利用者の変化に気づきそうなところの話を聞きたい。

(2) ディスカッションのテーマなど

- ・具体的な取組イメージづくり
- ・多業種の企業が協力して地域包括ケアに向けて取り組むためにどうすればよいかを話し合いたい。
- ・高齢者だけでなく若い方との関わりやコミュニティ
- ・介護事業における人材不足の解消

●会場とオンラインの併用開催について（抜粋）

- ・より多くの方が参加できて、多くの意見が出るので良いと思う。
- ・オンラインでもファシリテーターの方の誘導でスムーズにできたと思う。
- ・オンラインの書記のパワーポイント作成にもう少し時間を割いたほうがよいと感じた。
- ・オンライン併用はスケジュール調整がしやすい。
- ・オンラインは面識のない皆様との名刺交換などができず、協議会の場だけのお付き合いになってしまう。
- ・もう少し近くに画像が見られるスクリーン(TV)があるとよかった。
- ・もう少し参加者数を絞った方がよいと思った。
- ・事例発表はAさん事例が終わってからBさん事例に移ってほしい。発表時間はしっかり管理した方がよい。
- ・会場の音声途切れたり、最後の田中先生の講評が聞こえなかったりした。オンラインの接続トラブルは仕方ないが、もう少し減るといい。

ディスカッションで話し合いました！～心豊かな生活を送るために、どのようなサービス・支援・資源の活用が有効か～

市内で活動する保健・医療・福祉関係団体、市民公益活動団体、青少年支援団体、民間企業（不動産、鉄道、運輸、電気・ガス、配達飲食サービス等）、大学等研究機関等、多種多様な団体からの参加者が9つのグループ（オンライン4グループ、会場5グループ）に分かれ、グループディスカッションを行いました。今回は、実際にあった相談事例をもとに、その事例に対する支援やサービスに関して意見集約し、各グループで内容の発表を行いました。主な意見をご紹介します。



事例1に関する主なご意見

【事例の内容】75歳男性、妻は他界、子供無し、主疾患により室内では伝い歩き、外では杖歩行など

Aグループ（オンライン）

見守り方法の工夫

（課題や要望）

- ・さりげなく見守りをしてくれる人が必要

（あると良い支援やサービス）

- ・民生委員、ヘルパー、新聞配達員による見守り、郵便ポストのチェック

興味・関心からつながる

（課題や要望）

- ・誰かとつながる機会や社会との接点が必要

（あると良い支援やサービス）

- ・気軽に参加でき、顔なじみになれる居場所づくり（公園体操、料理教室、スマホ講座、映画鑑賞等）
- ・趣味（写真や旅行等）に関する相談サービス

Cグループ（オンライン）

アクティブになるための支援サービス

（課題や要望）

- ・孤独感の排除や、出歩くためのきっかけづくり

（あると良い支援やサービス）

- ・ペットを保護してもらおう保護猫制度の活用（孤独感の解消）
- ・食事ができる場所の提供（子ども食堂の高齢者版）

情報提供の工夫

（課題や要望）

- ・支援が必要な人に接触する人、関わる人を増やす

（あると良い支援やサービス）

- ・行政では足りないサービスを民間で担う
- ・民間企業のサービスで得られた情報を行政に届けるなど、行政と民間が連携できる仕組みの構築

Eグループ（会場）

外へ出て、人とつながり、何でも話せる相談相手をつくる

（課題や要望）

- ・趣味を通じた交流の場の創出や、外出の機会をつくって閉じこもりを防止
- ・妻に先立たれた男性の一人暮らしでは家事をはじめとする日常生活のサポートが必要

（あると良い支援やサービス）

- ・外出して交流を持ったり、趣味のクラブ等に参加したりする機会をつくる
- ・家事代行サービスを利用したり、総合窓口サービスなどで、相談相手をつくる
- ・民間企業の見守りに関するサービスを知る
- ・ITに関するサポート支援（スマホやPCの使い方、写真整理など）

Gグループ（会場）

パソコンも食事も仲間もつながりに

（課題や要望）

- ・話を聞いてくれる相手や、常時見守りをしてくれる家族のような存在が必要
- ・食事、外出、趣味など、日常生活を楽しむための支援やサービス

（あると良い支援やサービス）

- ・共通の趣味や同じような環境の人をつなげるサービスや拠点づくり（パソコンやスマホ教室、高齢者向け料理教室、体操教室など）
- ・食事などの宅配サービスや、見守りのための訪問サービス
- ・共感ややりがいを感じられるような人との関わりができる居場所づくり

Iグループ（会場）

「生活支援」と「人との関わり」をつなぐ

（課題や要望）

- ・定期的なサービスの利用や日常生活のサポートなどの「生活支援」と、話し相手や趣味を活用したつながりなどの「人との関わり」をつないでくれる人や仕組みがまず必要

（あると良い支援やサービス）

- ・民生委員など公的なサービスとの関わり
- ・老人会などの集いの場や、趣味などのサークル活動への参加促進
- ・家事サポートサービスや、ICTを活用した見守りサービスなど、民間のサービスも上手く組み合わせて活用する
- ・ロボットによる発話コミュニケーション

事例2に関する主なご意見

【事例の内容】89歳女性、夫は他界、精神的障害のある子供（56歳男性）と2人暮らしなど

Bグループ（オンライン）

障害をもつ子供への支援

（課題や要望）

- ・通所サービスや訪問サービスへのつなぎ
- ・現在必要な支援と将来に向けた支援の整理
- ・母親以外が子供をサポートできる仕組み

（あると良い支援やサービス）

- ・収入が得られる作業所など自立支援サービス
- ・自立支援を定期的に見守ってくれる民生委員のような人が必要

高齢の母親への支援

（課題や要望）

- ・障害をもつ子供のことを相談できる場所が必要
- ・相談機関の明確化と情報発信

（あると良い支援やサービス）

- ・母親が休める時間を作れるように、ケアマネやヘルパーが定期的に支援できる仕組み
- ・同じ立場の人と悩みを話せる場の創出
- ・自身が亡くなった後のことも含めたファイナンシャルプラン、エンディングノートの作成支援

Dグループ（オンライン）

地域支援ネットワークの確立（つなげる）

（課題や要望）

- ・障害のある子供を残して先立つ不安の解消
- （あると良い支援やサービス）
- ・それぞれの機関が連携して親子を見守る仕組みや、子供の自立支援
- ・高齢者と障害者支援の連携
- ・共生型施設を充実させ、個人負担を軽減させる
- ・成年後見人選定や、母親がいなくなった後の生活設計パターンの作成

お互い様の助け合い（ご近所ネットワーク）

（課題や要望）

- ・障害をもつ子どもの将来的な支援や、親子を孤立させない工夫が必要
- ・住み慣れた地域で暮らし続けること
- （あると良い支援やサービス）
- ・親同士の交流の場や、相談窓口の創出
- ・家事支援サービスの活用や、子どもの自立支援
- ・支援を使って母親の自由時間をつくる

Fグループ（会場）

自立を促す情報バンクを民間で作ろう！

（課題や要望）

- ・子供の視点では、将来的なことを考えて地域との関わりやコミュニティ支援が必要
- ・親の視点では、自分が亡くなった後の将来が不安であり、終活に関する手続きの支援が必要

（あると良い支援やサービス）

- ・子供に対しては、行政の仲介を含めた成年後見人の紹介サービスや、預かりサービス、訪問介護サービス、生活支援家事代行サービス、銀行への相談サービスの活用
- ・親に対しては、子供へのケアに掛かるストレスを可視化し、支援サービスを利用してリフレッシュする時間をつくる必要がある
- ・近所との交流や趣味の集いなどへの参加促進
- ・役所や民生委員としっかりつながり、連絡手段を確保する。
- ・必要な情報をくれるコミュニティの構築

Hグループ（会場）

子供への支援

（課題や要望）

- ・子供の自立支援や生活の維持、将来的な支援
- （あると良い支援やサービス）
- ・施設への入所や作業所への通所
- ・母以外のホームヘルプに慣れるための家事援助サービス
- ・母親がまだ元気な段階での、公的支援の整理
- ・母に何かあったときのご近所連絡体制の確立

財産管理や母親への支援

（課題や要望）

- ・財産の残し方や、母が亡くなった後の財産管理
- ・母自身の生きる喜び（趣味などのグループ交流）や、何でも相談できる相手をつくる
- （あると良い支援やサービス）
- ・財産のことや子供のことを任せられる後見人制度や、銀行による財産管理サービス
- ・遺言作成支援へつなげる役所の法律相談窓口